



ほっと46号

<https://dokaren.com>

2025年度 定期総会・研修会を開催しました

5月25日(日) 北広島芸術文化ホール で2025年度定期総会・研修会を開催しました。

はじめに、安田副会長の司会でご来賓の北海道議会議員 中野渡志穂様、北海道保健福祉部福祉局 課長 徳田泰則様、北海道知的障がい福祉協会 副会長 中島浩樹様、北海道手をつなぐ育成会 事務局長 藤田明宏様からご挨拶をいただきました。

(ご挨拶の要旨は2～3ページをご覧ください)

先に行われた研修会は、「札幌市自閉症者自立支援センター ゆい」高橋拓矢様に《自閉症・強度行動障がいを持つ方への支援》をテーマに、「北ひろしま福祉会 看取り援助推進室」小林悦子様には《施設と家族と一緒に》をテーマに講演いただきました。

いずれも行政の『第1期ほっかいどう障がい福祉プラン』とも深く関連し、参加者の皆様にも関心の高い内容で、講演後には『とてもよかった』『研修に来られなかった人にも参考にしてほしい』と資料を数冊持ち帰る参加者もいらっしゃいました。

お忙しいなか各施設の職員の方々、家族会の方々、大勢の方にご参加いただきあらためて感謝申し上げます。

続いて行われた定期総会は、能勢副会長の司会で2024年度の活動報告・会計報告、2025年度の事業計画・会計予算等、皆様にお諮りした議案の全てをご承認いただきました。

また、今後の課題に関しては皆様のご意見・ご要望を聞きながら役員会で話し合っていく予定です。遠方よりご出席いただいた各地区役員の皆様に感謝申し上げます。



研修会の様子



定期総会の様子

雨天にもかかわらず各施設の職員の方々、家族会の方々、合わせて100名以上の皆様にご参加いただきました。道家連の活動の励みになります。本当にありがとうございました。



ご挨拶（要旨）

2025年5月25日

北海道知的障がい家族会連合会 会長 近藤 正

道家連会長の近藤でございます。

本日はお忙しい中多数ご参加いただきありがとうございます。

今日は、100名を超える方のご参加をいただいております、昨年以上に多くの方が関心を持っていただいていることに感謝する次第でございます。

私たちの連合会は、知的障がい者支援施設利用者の家族が主に会員となり、道内7,000人近くが参加している団体で、2006年に発足しましたので約20年間障がいを持つ家族のためになる活動を行い今日に至っております。

近年、知的障がい者支援の現場は、もちろん社会全般にわたる問題ではありますが、少子高齢化による支援人材の不足や急激な物価高騰の影響が急速に広まっており、支援施設を運営されている支援員や管理者の方々のご苦勞も多いと伺っておりますし、障がい者を家族に持つ私たちとしても将来に向けての不安を感じることが多くあります。

また、行政が進めている障がい者福祉プランが昨年から新たに始まっておりますが、地域移行の施策が今後どのように具体化されてゆくのか、障がいを持つ人たちが将来に向けて安心して過ごせる仕組みづくりがどのように進められるかなどに私たちも大いに関心を持ち活動を継続することが大切と感じております。

今日これから研修会として2つの講話をお願いしており、レジュメも皆様にお届けしています。

「札幌市自閉症者自立支援センター ゆい」高橋様には自閉症や強度行動障がいを持つ方への支援について、「北ひろしま福祉会」小林様には看取り援助への取組についてお話いただきます。

いずれも私たちにとって関心の高い内容ですので一緒に学んでゆければと思います。

北海道議会議員 中野渡 志穂 様

現在道議会で子供政策調査特別委員会に所属しながら、子供たち、そして障害のある方々の施策について議会で訴えさせていただき様々ところで皆様のご意見を伺っております。

特に道家連の皆様には、北海道を代表する大変貴重な親の視点だけでなくエネルギー高騰や食材費高騰など施設の視点など大きな視点から要望をいただき、これが北海道の福祉施策の大切な礎（いしずえ）となって知事へも届きながら政策実現となっております。

その意味では、今日遠方から来てくださった方、雨に打たれながら来られた方もいらっしゃると思いますが、その行動、お声一つ一つが北海道の障がいのある方々を守る事につながっており、感謝申し上げます。

今日、いつもの「看取り」についての学びの他、新たな視点から強度行動障がいについても教えていただけるとの事で、私も前職は保健センターで臨床心理判定員という仕事をしており、障がいのある子供たちの早期発見とか早期療育などに携わっておりまして、その当時から「ゆい」さんとも連携を取らせていただいていたいました。

強度行動障がいについては、昨年度道家連役員の皆様に伊達市の支援施設視察に同行させていただきました。

現在では少しとらえ方が変わってきておりまして、知的障がいが入所されている方の85%が強度行動障がいの症状を少なからずお持ちであると認識されています。その認識の中から、より丁寧に対応がなされるような時代を迎えています。しかしながら、激しい癇癪のような症状があるとどのような対応が良い関わりになるのか支援員の皆さんも苦慮しながら手探りで頑張っているのが現状です。

そこで、視察を終えた後私も議場で初めて強度行動障がいについて取り上げさせていただきました。現状としては、国が主導して各都道府県に専門家を配置してゆくようスタートして動き出しています。

さらに、次の段階として現地に専門家が足を運んで現地に見合った環境整備をしたり、一人一人に適した対応を指導しながら専門家と同等な対応が各地でなされるような動きを今年度から始めていくところです。

皆様が一番困っていることは、きっとどのエリアでも同じ状態にあります。その声を届けていただくことで多くの障がいのある方を守っていく事につながります。皆様の存在が大切に思っております。これからも団結とさらなる力強い発展を願っております。私も力を尽くしてまいります。今年度もよろしくお願いいたします。

北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課 課長 徳田 泰則 様

道では、昨年3月に障がい福祉施策の基本的な方向性を示す「北海道障がい者基本計画」、それに基づく地域の必要な障がい福祉サービスの実施方針を示す「北海道障がい福祉計画」の2つを統合して令和6年度～11年度までを計画期間とする「第1期ほっかいどう障がい福祉プラン」を策定しました。

内容については、昨年のこの研修会で時間をいただき概要説明させていただきましたが、「希望するすべての障がい者が安心して地域で暮らせる社会作り」を基本テーマにし、障がいのある方を主体とした支援体制づくりを進めるため、ご本人が希望する暮らしの実現・意欲や障害特性に応じた地域活動が保証される社会作りの推進を目指しています。

障がいあるすべての人が、安心して地域で暮らせるよう今後とも市町村や道家連はじめ関係者の皆様と協働して障がい福祉の向上に取り組んで参りますのでご理解とご協力をお願いします。

北海道知的障がい福祉協会 副会長 中島 浩樹 様

2025年度の事業計画の1つとして「利用者様の暮らしを」テーマにあげ、すでに動いています。

具体的には利用者様本人の「意思決定支援」を大事にして福祉協会の組織である入所支援部会・地域支援部会・相談支援部会を柱にして、家族会皆様のテーマである「親亡き後」も視野に入れ、合同委員会を設立準備しており、9月12日に研修会も行います。

あらためまして、ご家族皆様の力も、今後間違いなく必要になってきます。

今回行う研修の「一緒に」というテーマにもありますように今後ともご協力よろしくお願いいたします。

北海道手をつなぐ育成会 事務局長 藤田 明宏 様

北海道手をつなぐ育成会は「どんな障がいがあっても生まれ育った地域で普通に暮らしていけること」を願いとして全道の市町村で活動を続けています。どこに暮らしていても必要な支援を受け、生活・労働・余暇の活動を十分に出来るように、障がいのある子供たちがより良い環境で希望する場で学ぶことが出来るように福祉制度や教育制度の改善を求めています。

今年は7月に参議院選挙があります。障がいがあっても選挙権を行使し、自分の選んだ候補者に投票が出来るよう合理的配慮を求めて2月に北海道選挙管理委員会に要望書を提出しました。投票所における合理的配慮は誰に投票するかを自己選択できるような情報提供などを求めるとともに入所施設において生活している人も投票できるように障がい者の入所施設を不在者投票指定施設とできるよう法改正を行うよう道から国に要望するよう求めました。

道育成会は今年設立70周年を迎えました。過疎化・高齢化のなかで運営に困難を感じている地区もあります。今後とも貴会の取組みと重なることは、連携を継続していけるようお願いします。

